

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名 三木市立三樹小学校

1 学校教育目標
志をもち ころ豊かに たくましく生きる三樹っ子の育成
～ 笑顔・挑戦・感謝 ～
2 本年度の重点目標
1 家庭・地域から信頼される安全・安心な学校
2 自他の良さを認め、互いに尊重し合える学校
3 志を持ち、たくましく、ねばり強く歩む学校
4 自己の可能性を限ることなく学び続ける学校
3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

Table with 4 columns: 評価の観点, 評価項目(取組内容), 取組(達成)の状況, 評価. Rows include 学習指導, 人権・道徳, 特別活動, 生活指導, 特別支援教育, 健康・安全防災教育, 家庭・地域との連携.

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価
・自己評価方法は適切である。具体的な評価項目を設定し、アンケートで回答を求めることで学校の方針や情報が保護者に広く伝わっている。評価判定の他に保護者からの自由記述欄を設ける事で、保護者からの要望も聞け、児童の個々に対応した適切な指導が出来る。
・評価方法として適切である。学校職員、保護者、児童、三者の意見を比べて見ることができ、内容も毎年変更され工夫されていると感じる。
・学校側、保護者、そして生徒本人と、幅広くカバーされた範囲に項目ごとにアンケートをとり、その集計を数値化、グラフとし、かつ前年対比として色分けしてあることから、良好点、改善点など、視覚的に把握しやすい方法を探っている点から、方法は適切と判断する。
・評価項目を新たに設けたり、教育活動の現状に合うように見直したりして、よりの確に学校評価が実施できるようにしている。また、教職員、児童、保護者の三者へのアンケートを実施し、結果を数値化し、評価基準によって処理している。結果の傾向と分析を行い、保護者アンケートの自由記述も考慮し、適切に評価している。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価
学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
評価Bは適切である。
・全ての児童に基礎能力定着のため、教職員の努力がうかがえる。今後は9年間の指導に向けての実践などの指導をお願いしたい。
・児童に身につけさせたい力を模索して授業を改善していく方法は評価したい。学年だけでなく学校全体で方針を明確にし、年度が変わってもふれられない教育を目指してほしい。
・やさしい日本語、タブレットを活用した数々のメニュー、中学校のテスト期間と合わせた何か等、教職員の向上や熱意が伝わってくるものばかりで、今後も継続してほしい反面、「自主学習」という新たに加わった項目に苦戦しているのが見受けられ、よって、今後の改善、是正を期待する。
・9年間のつながりのある指導」に向けた研修が幼小中連携で取り組まれ、来年度に向けての改善の方策も示されている。
評価Bは適切である。
・人間関係が希薄になっている現代社会において、児童に人権、道徳学習を進める事は大切なことである。学校、家庭共に協力し合い、児童の成長を見守りたい。
・親子でじんげんに関する価値観や考え方を話し合う取組は、考えを共有するきっかけになるので、継続してほしい。
・授業だけでなく、月間を設け、親子参加型授業等、メリハリをつけているところは良好と評価でき、また、その際も、「オンライン」機能を使う点も、時代のニーズに沿っている点と判断する。さらに、外国籍児童が多いという特色を活かして、国際理解、多文化共生を進めることは良い先だが、効果が出るのはまだ先だと、現段階でのB判定は適当とせざるを得ない。
・国際交流協会と連携して、国際理解、多文化共生教育の推進がなされている。「じんげんの歌」を全校生で歌うという新たな取組で、児童が「じんげん」を身近に捉えられるような工夫がなされている。
評価Aは適切である。
・他学年との縦割りファミリーの交流や地域見学、児童会活動など活発な活動が出来ていた。さらに児童からの自主的な計画作成などができる指導をお願いしたい。
・先生方の自己評価が下がっているが、児童や保護者の評価数値は悪くなっていないので、このまま取組を進めてほしい。コロナ禍も終り準備が難しかったが、子供の思いを取り入れた活動を楽しみにしている。
・コロナ禍が一段落し、急に今まで中止していた事業を再開、あるいは段階的に再開した中で、無事に実行にこぎつけ、また、特段な支障も出ていないことから、今後の課題となる点、改善点があったとしても、今年度についてはA判定は適切ではないだろうか。
・活動に他学年交流や地域人材活用を取り入れ、多様な特別活動が展開できている。創立150周年に向け、児童がより主体的に取り組めるよう、改善の方策も考えられている。
評価Bは適切である。
・心のアンケートの実施で、気になる児童の把握や早期対応などをおこない、教職員が児童の思いを受け止められる体制づくりがなされ、安心した。
・児童の「先生は自分の話をよく聞いてくれる」の評価数値が年々減少していることが気になる。まず児童の話に耳を傾け、その上で指導を行なっていただけたら改善するのではないかと。
・生徒はよくあいさつしている点も伝え聞くと、その点は良好であると判断する。また、学校もアンケートを取ったり、保護者と連携する機会を設けているが、やはり不登校生徒が増えている現状を考慮すると、B判定はやむを得ないと判断する。
・効果的に「心のアンケート」を実施し、問題の早期発見・早期対応に取り組んでいる。アシストルームを設置し、別室対応にも組織的な対応がなされている。しかし、教職員への過度な負担にならないように行政や地域からの支援が必要だと思われる。評価はA・Bである。
評価Bは適切である。
・児童の個々の特性を理解し、全教職員で共通理解をされたことはとても評価できる。個々のニーズに合った支援が出来よう今後も期待している。
・学校の対応を評価する意見があり、今後も個々のニーズに応じた支援をしていただきたい。
・学校としては、様々な方法、場所を提供していると思うのだが、保護者の十分な満足を得られていない数値である以上、B判定は仕方ない。発達段階など、個人によって違うので、全ての対象者に満足してもらおうとすると、一人一人にすべて違う環境を用意しなければならず、それはもはや公立小学校の限界を超えてしまう。
・年度初めや行事前に、児童理解が全教職員で行われており、組織で児童を育てていこうとする姿勢が感じられる。個別の教育支援計画・個別の指導計画は早期に作成され、必要な支援や適切な指導に役立て、更新したい。